

六ヶ所村の将来ビジョンと重要課題について

2023年11月28日 青森県六ヶ所村

六ヶ所村とむつ小川原開発

新全国総合開発計画から続く歴史

- 先人たちがどのような思いで開発を受け入れ、
また、原子燃料サイクル施設を了承したのか。
- その際、どのような未来を描いていたのか。

六ヶ所村とむつ小川原開発

苦渋の選択や騒乱を経て描いた未来

- 開発以前の貧しい六ヶ所村から見れば、飛躍的な発展を遂げてきた。
- しかし、現在の六ヶ所村は、当時先人たちが描いていた未来への「道半ば」である。

六ヶ所村の将来ビジョン

科学技術やエネルギー分野など、
六ヶ所村のポテンシャルを発揮し、
村民と共に躍進・発展する未来社会、
科学技術都市の形成を図る。

六ヶ所村が抱える重要課題

①防災力の強化

- ・再処理工場などの安全・安定操業
- ・避難道路の整備等、円滑な避難環境の確保

六ヶ所村が抱える重要課題

②むつ小川原開発の推進

- ・新むつ小川原開発基本計画の早期改定
- ・新計画に沿った産業の立地展開と、医療・農業分野などの研究開発の拠点化

六ヶ所村が抱える重要課題

③公共インフラの整備・拡充

- ・重要港湾「むつ小川原港」の早期拡充
- ・高規格道路等の基盤整備

六ヶ所村が抱える重要課題

④地域産業を支える人材育成・人材確保

- ・産業構築と歩調を合わせた人材の高度化、企業の技術力向上・地域への技術移転
- ・未来社会を担う次世代人材育成

参考：第4次六ヶ所村総合振興計画 基本構想

【理念】

ふるさと 郷土を愛し、あした 未来へ躍進

【将来像】

安らぎと幸せを実感できるまち

自然と歴史に培われた郷土を愛する心を大切にしながら、「科学やエネルギーなど新たな可能性を持つ未来社会へ向けて躍進していくこと」をまちづくりの理念に掲げ、村民一人一人が豊かに暮らし、村民の夢が実現できるように“安らぎと幸せを実感できるまち”を将来像とした。

参考：第4次六ヶ所村総合振興計画 基本構想

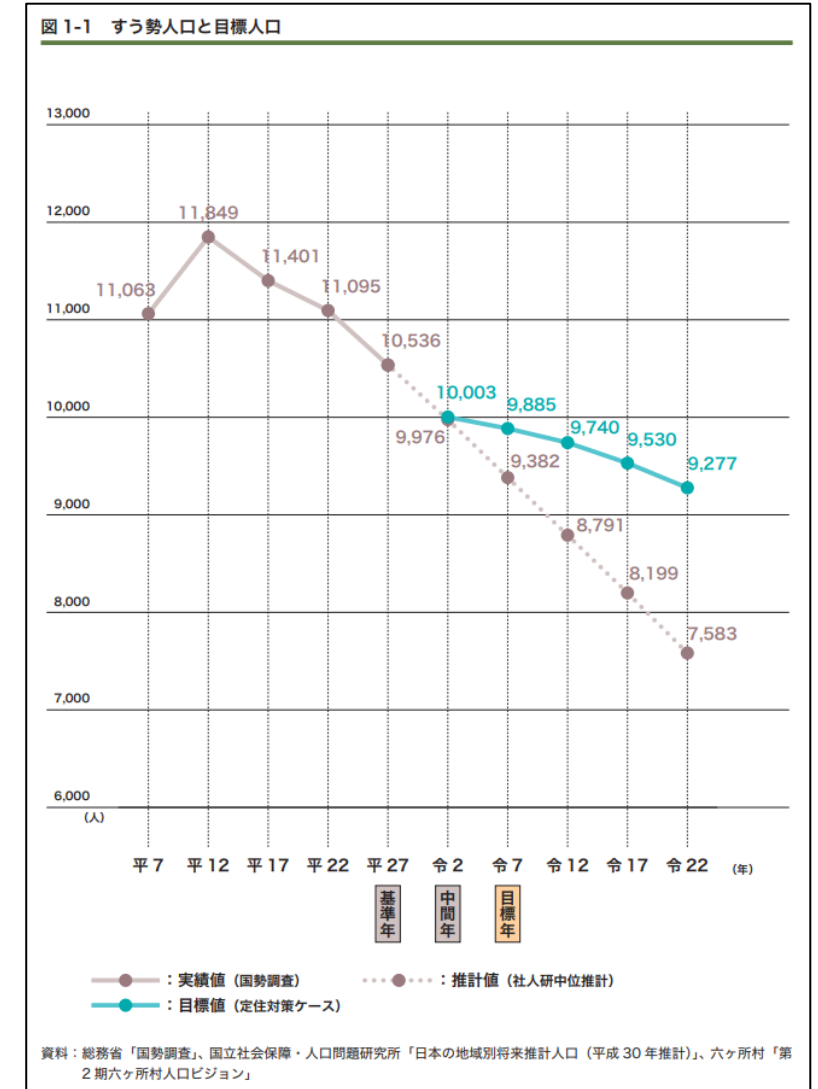
【目標人口（令和7年時点住民基本台帳ベース）】

10,081人 \longleftrightarrow 9,774人








令和5年11月1日時点

人口減少・少子化のペースは速まっており、地域産業やコミュニティの担い手不足、消費人口の減少などにより、経済活動の停滞、税収の減少など、村の活力低下への影響が危惧されている。

このことから、まち・ひと・しごとがバランスよくそろった暮らしの場を提供し、若い世代を中心とした定住人口対策を講じているところである。



参考：第4次六ヶ所村総合振興計画 基本構想

まちづくりの目標	施策の大綱	
経済の力を高めるために 1	個性豊かで多様な産業を育てる ⇒産業振興 ⇒企業誘致 ⇒起業 ⇒産業デジタル化・働き方改革	
人財の力を高めるために 2	未来を支える人と文化を育てる ⇒教育・文化 ⇒人材育成 ⇒交流	 【全体】 持続可能な社会づくりの担い手育成
安心の力を高めるために 3	共に健康でいきいきした暮らしを創る ⇒健康・医療 ⇒福祉・介護	
安全の力を高めるために 4	あらゆる災害に対応して安全を守る ⇒国土強靱化 ⇒自然防災 ⇒原子力防災 ⇒業務継続 ⇒消防 ⇒防犯 ⇒交通安全	
自然環境の力を高めるために 5	大切な自然をまもり・育て・伝える ⇒自然環境保全・景観 ⇒環境共生	
生活環境の力を高めるために 6	便利で快適な暮らしの場を創る ⇒居住環境 ⇒生活交通 ⇒アメニティ ⇒ICT	
協働の力を高めるために 7	官民協働で持続可能な経営を支える ⇒行財政運営 ⇒情報共有・住民参画 ⇒コミュニティ ⇒公共私連携 ⇒広域連携	

新たな視点	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">①SDGs起点のまちづくり <li style="width: 50%;">③官民連携パートナーシップ <li style="width: 50%;">②Society5.0の推進 <li style="width: 50%;">④その他、現状認識と課題に応じた見直し
--------------	---

参考：第4次六ヶ所村総合振興計画 基本構想

まちづくりの目標	基本方針
経済の力を高めるために 1	<p>豊かな自然の中で継承されてきた農畜産業、林業、水産業など地域資源を活かした基礎産業、新たに立地した原子燃料サイクルや再生可能エネルギー関連の事業所や研究施設などを最大限に活かしながら、新しい技術（DX／デジタル・トランスフォーメーション）を導入し、個性豊かで多様性に富んだ厚みのある産業を育てることで、地域の経済力を高め、村民の豊かな生活へ繋がります。</p>
人財の力を高めるために 2	<p>人口減少・少子高齢社会において地域自らの知恵や熱意で地域創生を推進していくためには、いかにして地域の人材を確保できるかが鍵を握っています。恵まれた自然、先進的・国際的な研究機関がもたらした環境など村ならではの個性（特色）を積極的に活かしながら、村の将来を担う子どもたちが育つ質の高い魅力ある教育環境を創出するとともに、先人から伝えられた文化と新たな文化の融合による地域個性を形成することにより、未来を支える人と文化を育て、地域の人財力を高めていきます。</p>
安心の力を高めるために 3	<p>我が国全体において人口減少・少子高齢社会を迎え、先行き不透明な時代となっています。村では、子育て世代や高齢者世代など、全ての世代が村のどこに住んでいても、医療や福祉、出産・子育て等に不安のない暮らしを担保することで地域の安心力を高め、村民と共に健康でいきいきとした暮らしを創ります。</p>
安全の力を高めるために 4	<p>地球規模の環境変化により今後ますます多発することが予想される自然災害や、2011年の福島第一原子力発電所の事故、さらには、国際テロ、世界的な感染症の流行などの脅威が増大する中、あらゆる危険や災害に対応できる体制を構築し、地域の安全力を高めていきます。</p>
自然環境の力を高めるために 5	<p>先人より大切に受け継がれた貴重な自然風土を保全するとともに地球環境の時代を先取りし、豊かな環境の中で村民が環境と共生し、環境に貢献する暮らしを積極的に進め、大切な自然をまもり・育て・伝えることにより、地域の自然環境力を高めていきます。</p>
生活環境の力を高めるために 6	<p>これまで尾駱レイクタウン地区を中心に都市的な居住環境や公共施設群などの都市基盤の整備を進めてきました。今後は、村に暮らす村民一人一人が現在の暮らしの環境の豊かさを実感するとともに、より便利で快適な暮らしを享受でき、住んでみたくなるまちとして、生活環境力を高めていきます。</p>
協働の力を高めるために 7	<p>我が国全体が着実に中央集権から地方分権、地方主権の方向に進む中、六ヶ所村では、人口減少・少子高齢社会における地方創生のモデルとして自立的な地域経営を実現するために、住民目線のきめ細かな行政サービスの提供と無理・無駄のない健全な財政運営を実現する一方、行政・住民・事業者等が共に歩む持続可能な公共私連携社会を実現することにより地域の協働力を高めていきます。</p>